

品種 きゅうり 耐病性・多収性の「夏ばやし」

きゅうり品種「夏ばやし」はうどんこ病の耐病性を有し、側枝の発生も旺盛で、初期収量を含めて収量性の高い品種である。

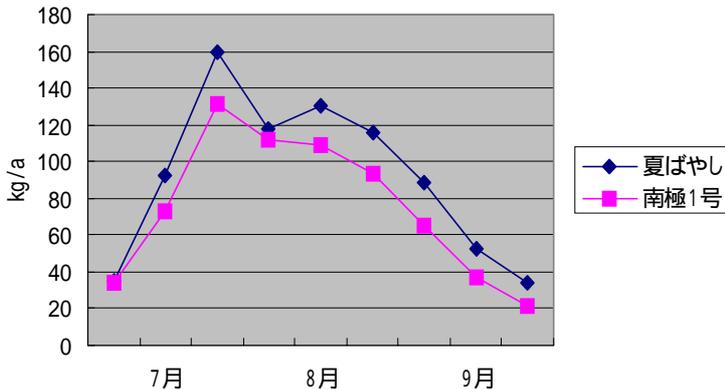


図1 時期別商品果収量の推移

「夏ばやし」は、露地普通作型において、側枝の発生・伸長が旺盛で着果数が多いので、期間を通じて商品果収量が「南極1号」に優る。

ただし、低温期には果形が短くなる傾向があるので、露地普通作型を基本とし、極端な早まきを避ける。

表1 生育・収量調査結果

品種名	播種後 74 日目				商品果 ¹ 収量 (kg/a)	A品率 ² (%)
	節数 (節)	側枝数 (本)	最大葉 (cm)			
			タテ	ヨコ		
夏ばやし	28.1	11.4	19.0	25.6	827	74
南極1号	27.4	11.0	22.0	28.9	675	72

1) 商品果収量：A品 + B品

2) A品率：商品果収量中のA品の割合

「南極1号」に比べて小葉であるが、側枝の発生は同等かやや優るので、整枝作業は従来どおりとする。

表2 うどんこ病発生程度

品種名	平成8年度場内		平成12年度園芸品種展示園	
	普通作型	抑制作型	千厩普及 センター	二戸普及 センター
夏ばやし	1	1	無	少
南極1号	5	5	中	中

注) 病害発生程度：0 (無発生) ~ 5 (多発)

「南極1号」よりうどんこ病の病害の広がりが遅い。ただし、完全抵抗性ではないので予防に重点をおいた防除を行う。